

業種名	前年同月比				業種名	前年同月比					
	売上受注	取引条件	収益状況	業界の景況		売上受注	取引条件	収益状況	業界の景況		
食料品製造業	漬物	→	→	→	→	卸売業	肥料	↓	↓	↓	→
	醤油・味噌	↓	→	↓	↓		◎卸団地(津)	→	→	↓	↓
	豆腐	→	→	↓	↓		◎商業(鳥羽)	↓	→	→	→
	麺	→	→	↓	↓		◎青果(松阪)	↓	↓	↓	↓
繊維製品製造業	◎組紐(伊賀)	→	→	→	→	小売業	自転車	↓	↓	↓	↓
	衣料縫製	→	↓	↓	↓		家電	→	→	↓	↓
	テントシート	→	→	→	→		石油	↑	→	↑	↑
木材・木製品	↓	↓	↓	↓	スポーツ用品		↑	→	→	→	
紙・紙加工品	段ボール箱	↓	→	↓	↓	商店街	◎熊野市	↑	→	→	→
	古紙	↓	→	↓	↓		自動車整備	→	→	→	→
印刷	→	→	→	→	サービス業	宿泊施設	↓	→	→	→	
窯業・土石製品	生コンクリート	→	→	→		→	旅行業	↓	→	↓	↓
	◎陶磁器Ⅰ(萬古焼)	→	→	↓		↓	◎飲食業	→	→	→	→
	◎陶磁器Ⅱ(伊賀焼)	↓	→	→		→	警備業	↓	→	→	→
金属・一般機器・電気機器・輸送機器	鍍金	→	→	→	↓	建設業	総合工事業	↓	→	→	→
	◎機械器具(四日市)	→	↓	↓	↓		内装工事業	↑	→	↑	↑
	◎機械器具(久居)	↑	→	→	→		電気工事業	→	→	→	→
	◎機械器具(伊勢)	↓	→	↓	→		◎水道工事業(四日市)	→	→	→	→
	◎電気機器(鳥羽)	↓	↓	↓	↓	運輸	トラック輸送	→	→	→	→
	◎輸送機器(鈴鹿)	→	→	↓	↓		◎不動産(鈴鹿亀山)	→	→	→	→

↑…増加・上昇・好転 →…変わらず ↓…減少・下落・悪化 ◎…地域単位の組合

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製造業	食料品	醤油味噌	円安傾向は変わらず、継続して厳しい状況である。
		豆腐	組合員ではないが、鈴鹿市で1軒の廃業があった。
	紙・紙加工品	紙器段ボール箱	クリスマス、年末年始商品の動きも鈍く、昨年対比5%から10%ぐらいの減産であった。自動車関係の輸出向けの段ボールも大幅に減少した。
		古紙	12月期の仕入重量は、前年比段ボールは約95%（増減6%前後）、新聞・チラシは約90%（増減5%前後）、雑誌等その他合わせて約93%（増減8%前後）といった中での推移である。急な選挙もあり人が動くので消費が増えるかと思われたが、月次結果が悪いという声が多い。僅かな勝ち組と多くの負け組に分かれているようにみられる。古紙の集荷量が増加し、増加分を輸出することができれば円安も伴い経営を安定させることができるが、少子高齢化とスマートフォンによる経営環境の変化は確実に紙離れの要因となっている。古紙の持ち去り行為については、中部地域で先駆けとなった四日市市での条例化により下火になっていたが無くなっておらず、更に金属や古着まで持って行くようになり困っているため、県での条例化や法制化が必要な状況である。
	印刷	印刷	年末は比較的忙しい時期であるが、国政選挙もあり11月からそれに関わる業者は仕事量が増えたと思われるが、全般的には良かったとは言えない。
	窯業・土石製品	伊賀焼	12月は昨年と比べて寒波が早く来たこともあり寒い日が続く、入館者数及び売上とも昨年を下回った。
	鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産量は11月とほぼ横並びの状況であった。扱い製品によって受注が多いところと少ないところとみられるが、全体的には若干の減少傾向であった。自動車関連はそれなりの生産量であるが、家電製品は減少傾向が続いている。半導体関連は11月同様増加傾向にあり、1月以降はまだまだ伸びる要素がある。
	一般機器	四日市	長く続く円安に影響され、多くの中小企業に材料高（原料高）をもたらし、利益の少ない商売を余儀なくされている。アベノミクスの失態と言わざるを得ない。2015年も中小企業にとっては厳しい年となる。倒産や廃業が続出することが予想される。
		伊勢	中小企業にとっては一向に景気回復の実感が得られない。逆に大手受注先からの単価値下げや電気料金等の値上げにより、年々利益率が低下傾向となっている。
	電気機器	鳥羽	前期に比べると横ばいよりも少し上昇していると思われる。しかし、製造コストは厳しく全体的に変化が求められている時代であるのかもしれない。
輸送機器	鈴鹿	円安の長期化をにらんで中国生産の輸入品を国内生産にしたいという動きが、一部の部品で具体的に出てきている。ただし、新たな設備投資と人材の育成が必要であり、余力のない企業は受注活動もままならない状況である。	
非製造業	小売業	青果	野菜は前半、全体的に安定した入荷で値段も落ち着いている。白菜等は例年より安い、きゅうり等は冷え込みにより高い。後半も引き続き安定しているが、年末から正月にかけて需要が増えるレタス等は高く、レンコンは昨年の3割高である。果物ではみかんは県内産が多く、産地銘柄でバラつきがあるが贈答用や正月用のため値上がり、サンふじは蜜が入って味が良い。イチゴは年末にかけて値上がりしている。
		自転車	年末の交通安全県民運動の初日から、県・市の依頼もあり各学校等において自転車の安全点検を行った。ボランティア活動的なものであり各組合員の店から出た商品は2割も無く、大型店販売の商品ばかりが目についた。2015年度新商品モデルの商品が各店舗に展示されたものの、この春新入学する生徒の減少傾向により、かなり厳しい年明けになるのではないと思われる。12月の売上は昨年比マイナス15%から20%であった。
		家電	各地域で販促催事を展開したが、例年に比べると静かな年末商戦であった。26年度は消費税増税前の駆け込み需要で3月までは大きく伸長したが、4月以降の個人消費は停滞が続き、年間ではマイナス成長となった。家電業界も同様で、消費税増税、冷夏と異常気象等でエアコンをはじめ大物商品が軒並みダウンした。
		石油	12月度に入り景気が幾分回復してきたような動きが見られる中、燃料油販売数量が前年比3%前後の増販で、収益についても原油価格の下落により、燃料販売量が増えたことと、寒さの影響もあり暖房用灯油の販売量も増加したことから、収益が向上した。特に燃料油に影響する原油価格状況は、6月に110ドル台が年末には60ドルを切る状況にある。今後OPECの動きにおいて急激に変動するかもしれない状況である。
		スポーツ用品	ウィンドブレーカーについては、各学校・クラブからの注文は多く入ったが、供給側の問題（ほとんどが中国産）で約束通り入荷しなかったり、入荷したがサイズが合わなかったりと、約束の日に納入出来ないことが起きている。

非製造業	商店街	熊野	9月より開催されているグルメイベントは今回、熊野周辺のご当地麺をメインテーマに開催。他にも11月より熊野漁協の出店もあり、お正月用の伊勢エビを目玉商品に販売したところ、たくさん集客することができた。また、折り込みチラシには今回初めて組合員の無料広告スペースを設け、歳末の販売促進に活用してもらえよう提案したところ、12店舗が活用した。
	サービス業	旅館	12月は忘年会と関連した宿泊で例年は活況を呈している師走であるが、今年は衆議院選挙があったためかキャンセル・延期が多く入って低調であった。年始よりも年末に利用される宿泊客が多かったようである。12月全体では前年同月比でやや減少した。
		飲食業	突然の解散により行われた衆議院議員総選挙、飲食業界では暮れの忘年会等の商戦にキャンセルや延期等の影響が目立った。一方、円安による業界への影響は輸入食材等の高騰から、仕入れコストの増大が経営負担になっている。また、県内の観光地の飲食店は、海外からの観光客は年々増加の傾向であり、2020年五輪開催に向けて消費者の更なる食への安心・安全ニーズの多様化・高度化に的確に対応していかなければならない。
		警備業	年末の為工事がなく、売り上げは減少した。
	建設業	内装工事業	前月に続き12月も売り上げは好調で、対前年比較もかなり改善している。年末需要によるものと思われるが、このまま新年も良い流れが続くことを望む。なお、引き続き人手不足が予想される。
		水道工事業(四日市)	今月に関しては特段大きな変化は見られないが、労務単価は上昇傾向にある。
	運輸業	トラック	燃料価格が原油価格の下落により若干値下がりしたものの、高騰時において運賃への転嫁ができておらず、苦しい経営状況に変わりはない。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
製造業	四日市	政府の無策と大企業偏重の施策に疑問が残る。中央会も全県を結集して対策を講じなければならない。
	久居	議員定数の削減を要望する。
サービス業	旅館	平成26年度税制改正において、固定資産評価基準におけるホテル・旅館に関する過程に係る経過年数が短縮（RC造の場合50年から45年）され、27年度の評価替えから適用されることとなった。については、各市町村に対して確実に実施されるよう国の指導を要望する。
運輸業	トラック	国による中小企業者への救済対策を望む。